

▲▽▲▽名古屋港海上交通センター▲▽▲▽②

1997年4月に設置され、入出港船舶に対し港内および周辺部の気象情報や交通情報を提供し、管制水路において管制業務を行っている。

名古屋港は横浜港と並ぶ日本最大級の貿易港である

■名古屋港海上交通センター付近

名古屋港海上交通センターは愛知県名古屋市、金城ふ頭の先端にある。金城ふ頭駅周辺は名古屋市国際展示場などがあり、にぎわいを見せる。一方、海上交通センター周辺は原則として一般公開していない保安区域内に位置し、至って静かである。青く光る、高さ約80mの細長い建物で、ちなみに保安区域とは、「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」により定められた立入禁止区域のこと。

・ガーデン埠頭

かつて物流の中心地であったが、近年は水族館などの娯楽・商業施設が整った観光地の要素が強くなった。地元では、この界隈を指して名古屋港と呼んでいる。表玄関は船橋(ブリッジ)の形をしたビルで展望室があり、眼下に広がる港がよく見える。また、背後の名古屋市街地や遠くの山々を展望することができる。眼下のガーデン埠頭には、かつて南極探検で活躍した南極観測船「ふじ」が係留され、庭園には忠実な働き者だった調査犬のタロ、ジロの像が置かれている。

・名古屋港水族館

1995年、人工飼育施設としては世界で初めてアカウミガメの産卵に成功。その後も成功が続き、人工砂浜から卵を掘り出して解説する会が開かれ、卵に触ることもできるという。水族館隣にはシートレイランドがあり、名古屋港ポートビル7階の展望室からは名古屋港を一望できる。冬の晴れた日には、雪をかぶった伊吹山や御嶽山が見られる。係留している南極観測船ふじは、1965年から8年の間、南極観測を支えてきた砕氷船。船内は当時のまま保存され、見学が可能。また、隣の広場では実際に使用されていたプロペラ、雪上車を見ることができる。